



第76巻 第7号

隣県特集 その1

長野県外地方史学界の動向—令和5年（2023年）—

群馬県地方史研究の動向…………… 1

丑木幸男

愛知県地方史研究の動向…………… 9

松田 繁・神谷 智・石田泰弘

高橋 賢・山下廉太郎

岐阜県地方史研究の動向…………… 20

村瀬泰啓・堀 祥岳

埼玉県地方史研究の動向…………… 30

堀口智彦・根ヶ山泰史・大橋毅顕

富山県地方史研究の動向…………… 41

鹿島昌也・松山充宏・尾島志保

米村 創

山梨県地方史研究の動向…………… 53

上野 桜・西川広平・高橋 修

新潟県地方史研究の動向…………… 65

石原正敏・浅井勝利・田嶋悠佑

荒川 将

会告 本号の編集について 会費納入のお願い……………（表紙Ⅱ）

会告 令和六年度事業委員会の計画……………（表紙Ⅲ）

雑誌関係要目

信 濃 史 学 会

令和六年七月二〇日発行（毎月一回二〇日発行）
昭和七年一月第一次「信濃」創刊以来総巻一〇三〇号

通巻第八九四号

編集後記

隣県特集号をお届けする。執筆いただきたいという皆様には毎年多くのご苦勞をおかけしていることに感謝申し上げます。本年の執筆陣では、富山県の民俗学分野担当が森俊氏から米村創氏へバトンタッチした。森氏は二〇一二年から一〇年以上執筆いただき、毎年締め切り前真つ先に原稿を送っていた。愛知県では考古学分野で日吉康浩氏から松田繁氏へ、上田早苗氏から高橋賢氏への交代があった。新潟県ではご自身で近世部分をお書きになり、県全体の取りまとめをしてくださっている渡部浩二氏が、担当している職務が多忙を極め、今回執筆を断念された。この分は来年度補っていただけるようお願いしてある。

本号を手にして、「あれ、長野県分がない」と不審に思われた方もおありかと思う。本会も会財政が厳しいなかでの運営を強いられ、次号に会計報告を掲載するので詳細はそれを御覧いただきたいが、支出の多くを会誌発行の経費が占める。その点を検討した結果、会誌の編集経費を見直し、従来八〇頁だてを基本としていたものを七二頁だてに減頁とすることに。特別な記念号は別にして、どの号も七二頁だてでいくために、本号も従来の形を変える必要が生じた。昨年は八県分を一括掲載し九八頁と大幅な超過をした。それを避けるため、本年から七月号へは隣接七県分を掲載し、長野県分を八月号へと分割して掲載することにした。長野県分が本号に掲載されていないのは、以上

の理由による。隣県の動向も長野県の動向も一冊で見ることができなくなり不便であるという批判もあるかと思うが、会員増により会財政の好転がみられるようになるまで、当分の間この形で編集をすることになるので、ご理解をお願いしたい。

考古学分野では、発掘調査が行われその成果の報告と、成果を展示で紹介することも盛んにおこなわれていることが各県の記載にみられる。発掘現場を直接見る機会は限られているから、成果をまとめてみることができる企画展示は考古学ファンには見逃せないものとなる。埼玉県の堀口氏は展示とともに講座・講演会が開催されたことを紹介している。山梨の上野氏も毎年県下の展示事業やシンポジウムなどを網羅して紹介している。本号で紹介されるものはすでに済んでしまった事業であるが、それらの団体や施設では引き続き次の新しい事業を計画しているはずなので、次に何が企画されるか新しい情報を知るために活用できるのではなからうか。

丑木氏は、群馬県で「字誌」の刊行が盛んであったと報告している。市町村などの自治体史の刊行から、さらに住民の生活に密着した生活単位である「字」の歴史に進んで、それを明らかにしようという動きが群馬で盛んに行われているというところである。この編さんには、そこに住む地域住民が多くかかわったと思われ、そのかわり方を始めとして全体の構想や叙述の仕方にも、広域な自治体史にはない住民による方策があったと思われる。参考になる「字誌」を紹介いただければ他地区でも参考になると思う。このところ自治体のDX化推進とかによつ

て、紀要など研究物が印刷を止めてウェブ上で公開へと切り替わっている傾向がある。購入しなくても、自宅に居ながらにして閲覧ができ、また多数の人が見ることができるようになり、大きな利点であり、予算を削減できるということでも都合のよいことかもしれないが、果たして紙で残すということをやめてしまつてよいのであろうか。

フロッピーディスクに代表されるように、電子媒体の進化は一世を風靡した物もあったという間に使えなくなつてしまふ。その点、紙は残つてきたし今後も残る。ウェブ公開一辺倒でなく紙の印刷物と併用していくことを大事にしていくべきでないかと思う。それは印刷文化を継承していくことでもある。

(後藤芳孝)

信濃 第76巻 第7号

2024年7月20日発行 定価 1,150円 1ヵ月 850円
(令和6年) 送料 88円 会費 6ヵ月 5,100円
1ヵ年 10,200円

編集兼 信濃史学会

会長 後藤 芳孝
会誌編集委員長 後藤 芳孝

印刷者兼 長野県長野市西和田1丁目30番3号
印刷所 信毎書籍印刷株式会社
取締役社長 矢島 哲郎

発行所

長野県松本市村井町南1-28-35
信濃史学会
電話/FAX 松本(0263)58-1213
http://www.shinano-shigakukai.jp/
Email shinano-has@po.mcci.or.jp
振替 長野 00500-8-16995
郵便番号 399-0036